

私達の心は、過去に起こった出来事を思い出し、未来を想像するなど、時間に縛られず自由に思いを巡らせることができます。こうした自由性が心にあるおかげで、私たちは過去に感謝を抱くことができ、また未来に希望を持つことができるのです。一方で、過ぎたことをいつまでも後悔したり、未来に過剰な不安や心配を抱いたりしてしまふこともあります。

新入社員のTさんは、大変な心配性でした。与えられる仕事はどれも初めてなことばかりで、(失敗したらどうしよう)と不安になり、先輩に質問しようとしても、(先輩の迷惑になりはしないだろうか)と迷ってしまいます。結果、時間ばかりが過ぎていき、仕事は終わらず、周囲に迷惑をかけてしまい、落ち込んでしまふのでした。

入社した日は希望に満ち溢れていたTさんの表情が、次第に曇っていききました。その様子を見たS社長は、自身の執務室にTさん呼びました。

「最近元気がないね」と尋ねると、TさんはS社長の顔を窺うようにしながら、おぼろげと自分の心配性について話し始め、そのことで自己嫌悪をしていると、最後は涙ながらに打ち明けたのです。

日頃から倫理法人会で心の在り方を学んでいたS社長は、『万人幸福の葉』を開き、その中の一文を紹介しました。

今日はまたとめぐって来ない。昨日は過ぎ去った今日であり、明日は近づく今日である。今日の外に人生はない。人の一生は、



「今・ここ」に 集中して生きる

今日の連続である。

(中略)

一日は今の一秒の集積である。今を失う人は一日を失う人、そして一生を棒にふる人。「時は金なり」と言う。しかし、金はとりかえせる。時は再び来ない。

『万人幸福の葉』第一条

Tさんに読み聞かせてから、S社長は自身も心配の癖があることを明かし、「誰しも先のことや心配になることや、過ぎたことを悔いることがある。だけれど、この本に書かれている通り、私たちは常に『今・ここ』で生きているのだから、過去に囚われたり失敗を恐れたりせず、今すべきことに集中できるようにしたいものだね」と語りました。

そして、「T君のように繊細な視線を持っている人が、うちには必要だよ。その特長を活かして、楽しんで仕事に取り組んでほしい」と激励しました。話を終えると、Tさんの表情は晴れやかになっていったといえます。

それからTさんは、持ち前の細やかな心配りを活かして積極的に仕事に打ち込めるようになっていきました。笑顔が増え、困難にも丁寧に対処し、先のことを心配する癖も直ってきたそうです。

「今を楽しむ心があれば、未来を憂うことも過去を悔やむことも少なくなっていくのだと、T君に教えてもらいました」と、未来を担う若手社員の頼もしい姿を見ながら、S社長は目を細めるのでした。